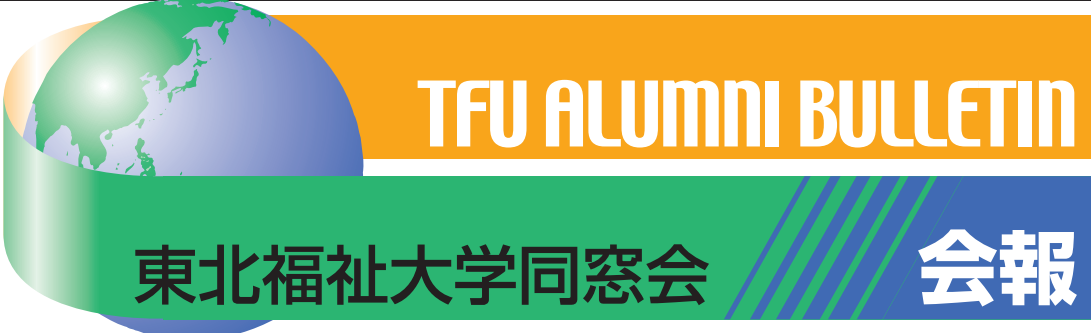




第17号
東北福祉大学
学長 萩野 浩基
〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1
電話(代) 022-233-3111
FAX(代) 022-233-3113
ホームページ
http://www.tfu.ac.jp



仕事に余念のない大友市長。背景は角田市役所

宮城県角田市長に聞く 一九七四年度卒の大友喜助氏

一九七四年度に社会教育学科を卒業した大友喜助氏(58)が昨年七月の宮城県角田市の市長選で見事、初当選を飾った。卒業生の市長当選は二〇〇一年新潟県白根市(〇五年新潟市と合併)の吉沢真澄氏(七五年度卒)、〇六年茨城県高萩市の草間吉夫氏(八八年度卒)に次いで三人目。大友氏が過ごした学生時代や、十月に市制施行五十周年を迎えた角田市の市長としての抱負などを語っていただいた。

第一印象からして清廉かつ実直そのもの。本学卒業後、角田市役所に勤務し三十三年間、自治体行政に携わったからというのではなく、学生時代から備わっていたいわばもって生まれた資質であることが話を聞いて、よく分かった。学生時代は全国的に大学紛争真っ盛り。本学も例外ではなく、大友氏は授業が休講になるとアルバイト先の受験雑誌社に出向いた。仕事は受験生の国語模試の添削で、三年次まで続けた。

大学のゼミでは竹内利美教授にお世話になった。農村社会学を研究する教授の下で、「村落共同体」について学んだ。手帳とチーズを手に農村に入る竹内教授は「現場を見ることで地域社会が分かるんだ」が口癖で、強烈なイメージを残した。

将来を意識し出したのは三年次の後半だった。「公務員になる」と決め、本格的に勉強に打ち込んだ。

住みよい街づくりのために

角田市役所では社会福祉事務所、教育委員会を経て、企画課へ。十一年過ぎた企画課係長時には「住みよい街づくりにするにはどうすればいいか」と考え、悩んだ。背景には出版社発行の一九九一年「住みよきランキンク」があった。656市の中で、角田市はA〜DのDランク。人口規模が小さくても上位に位置する市もあった。

関連する本を集めては、ノートにまとめた。幸い今回、当時のノートが見つかり、懐かしく読んだ。四年次の卒論のテーマは「地域の空洞化について」。大友氏は「気合を入れてがんばった」と振り返る。ここでもノートが役立ったことは言うまでもない。

就職試験では宮城県の学校事務職と角田市役所の双方に受かったが、「自治体行政に関心があった」ことで、市役所を選んだ。

街歩きも筋金入り

〇：大友氏の趣味は街歩き。一九九〇年、医者からコレステロール値が高いと言われ、「健康づくりのために始めた」のがきっかけだった。ただ歩くだけでは飽きるため、ポケットラジオ持参でタウンウォッチングを兼ねた。自然と人々の暮らしが目に入り、街づくりのために生かされている。趣味が高じて埼玉で開かれた一日三〇キロ、三日間歩き通す国際スリデーマーチ、今治・尾道の「瀬戸内しまなみ海道」(八〇キロ)スリデーマーチにも参加。今や街歩きも筋金入りだ。



「予防ケアシステムの構築に関する研究」

平成二十年度「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、本学が採択された。事業名は「児童青年期精神障害および

高齢者関連疾患における先進的個別化予防ケアシステムの構築に関する研究」。

内容は、福祉を中心とした研究の蓄積を基礎に捉え、医療環境を統合させ、心身の健康維持を図る予防法および疾患の慢性化予防法を開発することを目的とする。

併せて、発達過程と加齢に関連した疾患の病因や病態を解明するための先進的な測定法を開発し、予防ケア・慢性化予防・健康維持のためのシステムの確立を図る。

研究拠点は本学の感性福祉研究所・健康科学研究センターで、事業費は五年間で六億円を超える。なお、これまでに採択された本学の事業には学術フロンティア推進、特色GP、現代GP、社会人の学び直しニーズ、学生支援GP、知的クラスター創成事業がある。

さらに、平成二十年度から特色GP、現代GPが「教育GP」に一本化され、本学の「重度障害者ICT支援コーディネーター育成」が採択されている。

災害時想定炊き出しに 自前の米45キロを使用

防災活動の一環として、災害時を想定した「炊き出し」が十一月十二日、三号館前の防災広場で実施された。総務部、地域減災センター、学生支援GPセンターが主体になり、仮設本部を設置。テントや炊き出し用の釜、プロパンガスボンベが用意された。

使用されるお米は五月に学生が田植えし、九月に稲刈りした「まなむすめ」の一部45キロで、三百食分に相当。お手伝いの学生や教職員が日本赤十字社宮城県支部の災害救護用包装食と書かれたビニール袋に、約一合(140g)のお米と水を入れ、輪ゴムで留める。釜で約30分煮た後、約10分間蒸して出来上がり。水は図書館東

側にある井戸の地下水を、発電機を用いて吸い上げて使用した。昼休みの時間帯とあり、用意された三百食は瞬く間に消えた。大竹榮総務局長が「災害はいつ起こるか分からない。日ごろからの心構えが大事だ。みんなには自分でできるようにしてほしいから」と開催趣旨を説明した。

本学は「自産自消」をモットーに今年度、学生が農業体験として田植え、稲刈りに参加。収穫されたお米は十俵(600キロ)に上り、そのうちの一部が使用された。

なお、農業体験は次年度以降も継続して実施される予定だ。

道元禅師の生涯描いた 映画「禅」公開

曹洞宗の開祖・道元禅師(一二〇〇〜五三)の生涯を描いた感動の映画「禅(ZEN)」が一月十日の全国ロードショーに先立って十二月七日、音楽堂けやきホールで公開された。曹洞宗の宗門大学である本学にあつて、道元禅師は特別な存在。学生や市民、宗門関係者ら約六百人が参加した。

上映前に萩野浩基学長が「現代は心の問題が叫ばれ、不安がまん延している。そんな中、(宗教は)心の羅針盤として見直されている。道元を知り、あすへの道しるべにしよう」とあいさつを述べた。

ときは七百五十年前の鎌倉時代。既成仏教に疑問を抱いた道元が中国に渡り、正師と真実の教えを得たのち、日本に戻って、乱世の中、困窮する人々と権力者・北条時頼の苦悩を救済するため真の仏法を広めるまでが描かれた。

原作は大谷哲夫、監督・脚本は高橋伴明。主演・中村勘太郎、ヒ

体育会支える幹事会

本学体育会が発足したのは一九七二年(昭47)。現在ある26部の卒業生だけでも五千人を超す。今年度はゴルフ部男子と女子ソフトボール部が日本一に輝き、新たな1ページをしるした。これまで輝かしい歴史を支えてくれた多くの人たちの努力がしのばれる。▼そこで今回は、体育会をまとめる常任幹事会について触れる。毎月集められた活動報告書の整理や定例会議の連絡など、仕事は多岐に渡る。それ以外にも今回30号を数えた機関紙「雄飛」の発行や春の人会式、秋のスポーツフェスティバルの企画・運営なども手がけている。▼中でも、スポーツフェスティバルは五八年、短大設立当時から続く養護施設の児童を招待する球技大会で、名称こそ変わったものの、施設の子もたちにスポーツを通して有意義なひとときを過ごしてもらうための伝統行事だ。今年度はさわらび学園と旭が丘学園の2組、11歳から17歳までの三十八人が参加。試合に先立って、硬式野球部の一年生が手取り、足取りの指導を行ったが、子どもたちには大変好評であったと聞く。

▼後日、参加した小五の児童の父親から実行委員長あてに「親子共々、大変有意義な一日でした」とのお礼状が届いた。父親から子どもの写った写真を送ってもらえないかとの依頼があり、新聞部で取材した分と常任幹事会が撮ったすべての写真データを送ったとのこと。▼体育会に所属する学生が安心して活動に打ち込めるのも、こんな心遣いのできる常任幹事会の存在があればこそ。今後も競技を行う人と支える人がうまく連携していくことを願わずにはられない。

(国見 太郎)

平成 8 年
(1996 年)
当 時

本学関連施設の第一号
せんだんの杜がオープン

東北福祉大学は一八七五年（明治八年）に曹洞宗専門学支校として誕生した。幾多の変遷を重ね一九五八年（昭和三十三年）に短期大学になり、六二年（同三十七年）に四年制大学に昇格、社会福祉学部社会福祉学科を設けた。短大時代から数え、卒業生の数は三万人を超えている。さて、大学の時々を振り返るシリーズは17回目。今回は昨年、文部科学大臣から「生涯スポーツ功労者」を受賞した大和田直樹教授が部長を務める女子バレーボール部が日本一になった一九九六年（平成八年）を取り上げる。この年の四月に本学の関連施設第一号がオープンした。

運営は東北福祉会

今や関連施設の充実ぶりでは全国トップレベルを誇る東北福祉大学にあつて、その先駆けとなったのが高齢者福祉施設「せんだんの杜」である。

大学が直接施設を持つことは学校教育法で許されていないため、本学では社会福祉法人「東北福祉会」（理事長・板橋登美）を立ち上げ、運営を委ねた。

仙台の市街地が見下ろせる第二キャンパスの丘に建ち、特別養護老人ホーム「リベラ荘」（定員五十人）とケアハウス「フエリコ館」（定員三十人）のほかシヨール

頑張ってます
今も昔も

奉職40年の大和田教授インタビュー



昨年、文部科学大臣「生涯スポーツ功労者」を受賞

した大和田直樹教授に直撃インタビュー。一九九六年には部長を務める女子バレーボール部が日本一を達成。本学に着任して四十年になる大和田教授に話を伺った。

Q 「生涯スポーツ功労者」受賞おめでとうございます。ご感想を。

A まさかもらえるとは思わなかった。みんなと一緒に活動してきたわけだから賞はみんなのもの。みんなの宝だ。

Q 奉職して四十年。最大の思

とする六十五歳以上の高齢者の生活支援サービスをはじめ、社会福祉士の資格取得を目指す学生の社会福祉援助技術現場実習の受け入れ先もなっており、毎年十五人の学生がお世話になっている。

なお、九九年四月「リベラ荘」に隣接して建てられた「せんだんの杜保育園」も保育実習生の受け



皿になっている。その後、せんだんの杜ものう（九九年四月）、せんだんの丘（二〇〇〇年四月）、せんだんの里（〇一年三月）、せんだんの館（〇五年十二月）、せんだんホスピタル（〇八年六月）と続き、本学の発展ぶりの一端を象徴している。

女バレが日本一に

一方、学生たちもたくましく成長。女子バレーボール部が十二月に行われた第43回秩父宮妃賜杯全日本選手権大会で悲願の初優勝を飾った。準決勝の筑波大戦まで1セットも落とさない快進撃。決勝

の福岡大戦こそ第1セットを奪われたが、佐藤伊知子監督から「ふざけるな！」の雷が落ち、続く3セットを連取して逆転勝ちした。一月の祝賀会では大和田部長が感極まって、うれし涙を流した。

ときは橋本龍太郎内閣。二月に作家・司馬遼太郎が亡くなり、十二月にベルーの日本大使館で人質事件が発生。めまぐるしい世情の中、本学躍進の象徴でもある関連施設第一号が産声を上げた。

展に貢献してきましたね。その思いは？

A 体育会是一般学生の模範にならないと、という思いでやって来た。学生が帰省して、母校に立ち寄ったとき、その生徒がよくなくていれば、先生は見直してくれる。だから大学スポーツは小中高のモデルでないといけない。

Q 先生のモットーは？

A 創意、工夫に努力だ。創意、工夫までは誰でもする。努力が大切だ。それがないと萎れてしまう。積み重ねる努力を繰り返すこと。四十年経つ今でも大和田先生の情熱は衰えない。二度目の日本一に向かってまっしぐらだ。本日はこちらがとうございしました。

体育会各部の成績

陸上競技部

全日本大学女子駅伝（10月26日、宮城陸上競技場／仙台市役所前）
▽本学 2時間21分36秒 22位
第40回全日本大学駅伝（11月2日、名古屋市熱田神宮／三重県伊勢神宮）
▽本学 5時間38分8秒 17位

ハンドボール部

全日本学生選手権（11月20～24日、山口県周南市）
▽男子 本学 二回戦敗退
▽女子 本学 初戦敗退

卓球部

東北学生連盟会長杯争奪大会（10月25、26日、栗原市若柳総合体育館）
▽男子 団体決勝

祝賀会に5百人参加 硬式野球部

OBの金本、矢野選手の偉業を称える

秋の明治神宮大会で準優勝した硬式野球部のOB会と大学共催の祝賀会が十二月六日、仙台市のホテルメトロポリタン仙台で開催された。一般市民と大学関係者ら約五百人が参加した。

OBで、プロ野球史上三十七人目の二〇〇〇本安打を達成した金本知憲外野手（平成三年度卒）と、同じく阪神タイガースで八月の北京五輪日本代表としてチームに貢献した矢野輝弘捕手（同二年度卒）の二人の偉業を称える意味も込められた。

渡辺信英学長補佐が口火を切り、野球部の大竹薬部長が「東北は常に劣勢の歴史にあったが、仙台でもやれるんだということを見せている。今は世界的に大ピンチなときだが、みんなで頑張れば乗り越えられる」とあいさつを述べた。

仙台六大学野球連盟の丸森仲吾理事長の祝辞に続き、OB会の千葉幸喜会長が金本外野手に「トレーニング機器一式」と書かれた目録を手渡した。

金本外野手は「こうして集まっていたいただき感謝している」と笑顔で話した。大学時代を共に過ごした懐かしい仲間と旧交を温めながら、つかの間の休息を楽しんだ。

ほかにOBでプロ野球の楽天（塩川、井野、松崎、木谷）、広島（石原、横浜、吉見）の六選手が壇上で紹介された。



金本選手を紹介する大竹部長（左）

本学後援会の光永輝彦会長が「部長、監督、選手の努力に敬意を表する。（好成績に）人づくりのための人づくりが根底にあるからだ」と本学が掲げるスローガンを訴え、締めくくった。

東北福祉大学ホームページ <http://www.tfu.ac.jp>

B 日程試験 [学部分割] ●出願期間 / 平成 21 年 2 月 2 日 (月) ～ 2 月 12 日 (木) [必着]

学部	学科・専攻	試験日	試験会場	合格発表日	手続期限日
子ども科学部	子ども教育学科	2月19日（木）	仙台 (本学国見キャンパス) 札幌, 青森, 盛岡, 秋田, 山形, 郡山, さいたま, 東京, 新潟	2月27日（金）	3月12日（木）
健康科学部	保健看護学科				
総合福祉学部	社会教育学科				
総合マネジメント学部	情報福祉マネジメント学科	2月20日（金）			
健康科学部	リハビリテーション学科 作業療法学専攻				
総合福祉学部	社会福祉学科				
健康科学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2月21日（土）			
総合福祉学部	福祉心理学科				
総合マネジメント学部	産業福祉マネジメント学科	2月22日（日）			
健康科学部	医療経営管理学科				

C 日程試験 ●出願期間 / 平成 21 年 2 月 23 日 (月) ～ 3 月 9 日 (月) [必着]

区分	学部	学科・専攻	試験日	試験会場	合格発表日	手続期限日
学部統一	全	全	3 月 12 日 (木)	仙台 (本学国見キャンパス)	3 月 19 日 (木)	3 月 26 日 (木)
学部分割	全	全	3 月 13 日 (金)	さいたま		

平成 21 年度

今後の入試情報

同窓会 便り ①

母校の変貌に驚く

栃木県同窓会有志

栃木県同窓会の事業として、平成十五年に次いで五年ぶり二度目の母校訪問が、九月十九日に実施された。

訪問は、小池芳子会長（昭37短大）ら七名がワゴン車で訪れ「せんだんホスピタル」を重点的に見学した。見学を終えた感想として「医療、保健、福祉が融合したところのケアを社会に提供している素晴らしい病院ですね」と感動していた。

その後、東北福祉大前駅とステーションキャンパス館を訪れ、授業で最新の機材を導入していることを聞き「母校が目覚ましい発展をしていることに誇りを感じた」



母校名が駅名に。誇りに思うと記念写真をパチリ！

人物 登場

全館まるごとギャラリー 遊・和展開く



自作品の前に立つ支部蘭蹊さん
＝ホテル瑞鳳のロビーにて＝

書道家、支部蘭蹊さん（本名一郎・昭47社福）が十月六日から十二月三十一日まで秋保温泉ホテル瑞鳳で展示会を開いた。支部さんは伝統的な書道の世界のなかに、より自由な発想とやわらかい表現力を求め、従来の書の形式にとらわれることなく、紙や布、木や石などさまざまな素材や書体を生かし、一味違う書として表現するのを特徴にする。展示会は「仙台みやぎデスティ

杜西寮の集いⅡ札幌で開く

第五回杜西寮Ⅱの集いを九月二十七日、札幌市で開催した。

集いは昭和四十六年度卒で学生時代を杜西寮で過ごした寮生で組織されている。平成十二年、仙台での初集いを機に、二年ごとに開くことを申し合わせ、これまでに函館・富山・徳山・札幌の順に開いてきた。今回は平成二十二年に青森市で開くことが決まっている。札幌での集いには、徳島・大阪・浜松・東京・栃木から十五名が出



2年ぶりの再会を喜ぶ杜西寮生の皆さん

「楽書工房」を主宰、みやぎ婦人会館、イオン泉沢沢カルチャー教室で講師を務めている。

「サンシティ宮崎」の実現目指す 蔵山志保美さん



蔵山志保美さん

新しいコミュニティのまちづくり「シニアの理想郷・ユニバーサルタウン宮崎構想」の実現を目指して活動している卒業生がいる。蔵山志保美さん（平8社福・社会福祉士）で、NPO法人サンシティ宮崎に所属。

支部さんの父は書道家だったが後継の道を選ばず、本学卒業後は首都圏の知的障害者施設で八年勤めた。この間、知的障害児に書道を教えたことが、今日の道を開くきっかけになったという。これまでに、毎日展・産経国際書展・河北書道展等が入賞入選、カナダモントリオール国際芸術祭では特別賞を受賞している。現在

席、二年ぶりの再会を楽しんだ。話題は、やはり寮で学生時代を過ごした思い出話に集中し、深夜まで語り尽くした。

幹事役の吉田（旧姓平野）礼子さんは、「現在の健康に感謝しつつ、機会を生かして、その瞬間瞬

木々が色鮮やかにイルミネーション点灯

恒例のイルミネーションが国見の本校地とステーションキャンパス館に点灯した。両キャンパス館には合わせて一〇、二六〇灯の電球が色鮮やかに映し出された。点灯期間は、十二月一日から二十五日までで、帰宅を急ぐ学生や駅利用の乗降客の目を楽しませ、心を和ませていた。



こころを和ませた国見キャンパスのイルミネーション

「個人情報保護法」が平成十七年四月に施行されたことから、同窓会事務局では個人情報管理する

団体（個人情報取扱事業者）として、管理の徹底と安全対策を図るため委託業者と「個人情報業務委託基本契約」・「会員データ有償管理業務契約」を締結していた。しかし、昨年九月三十日をもって二

いる。その中から「誰でも対等な生活者だから、その人がその人らしい生活が送れるように支援することが大事」と訴え、孤独な独居世帯をなくし、核家族に伴う家族を支えていきたいと精力を注いでいる。

ななえさんは現在、歌舞伎を題材とした歌語りを全国各地で公演、ご当地ソングを熱唱したり、舞台やラジオに出演するなど多忙な日々を送っている。ななえさんは、母校の国見祭から出演の依頼が来ることに望みをもちながら母校を後にした。

ひよっこり母校を訪れる 歌手のななえゆりさん

歌手・歌語りのななえ ゆりさん（本名佐藤世利江・平6福心）が八月二十五日（月）、ひよっこり本学同窓会事務局を訪れた。



ななえゆりさん

卒業後初の訪問となったななえさんは、在学中お世話になったという学生課の菅本昭夫次長を訪れ、現状を報告し、激励を受けた。すでに午後四時を回っていたキャンパスでは、蛸蟬の鳴き声が響く中、思い出の教室や施設を見て歩き、大学の変貌ぶりに驚いていた。

間を精一杯生きた方が喜びと楽しみも倍加するので、今後とも集いには積極的に参加していきたい」と話していた。翌日は、札幌市内を見学し、二年後の再会を約束して各々の郷里に帰った。

Ⅱ？Ⅱ 杜西寮 昭和三十四・五年頃に、現在の福聚殿の地に建立された女子学生専用寮。同四十八年五月講堂兼体育館着工に伴い撤去後、大満寺（仙台市太白区向山）境内に新築移転。しかし、通学に不便だったため入寮生がなく、数年後に自然閉鎖となった。

つの契約を解約し、以後本学が管理業務を引き継いでいる。本学として、卒業生のデータ管理をより安全に、より厳重なセキュリティ確保のもと管理業務を実施している。

個人情報に関するお問い合わせは、本学同窓会事務局が対応します。また、会員情報、異動・変更等は事務局まで、ご連絡ください。◇連絡先 Tel 022-233-3111 (内線276) Fax 022-233-3113 メールアドレス dousou@tfu-mail.tfu.ac.jp

通信教育部だより

◇ご協力とお願い

社会福祉士の実習受入れ施設の皆さんに実習先登録へのご協力と実習指導者講習会開催時には、ぜひ受講をお願いします。

◇社会福祉士受験資格取得について

① 入学前に1年以上の相談援助業務従事者は「社会福祉援助技術実習」が免除になります。

② 平成元年卒以降、通学課程やその他大学で社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目単位修得済の方は、その科目の再履修が不要となります。

この件についてのお問い合わせは通信教育部Ⅱ Tel 022-233-2211まで。

◇アンケートのご協力とお礼

卒業生の皆さんには昨秋実施したアンケートにご協力いただきありがとうございました。まだご返送のない方は、ぜひご協力ください。集計結果は、募集要項や「With」56号・通信教育部ホームページで紹介しています。

国際交流にも一役

特別展「芹沢銈介の生活デザイン」の開催期間中（十月一日から十二月十七日）、毎週火・土曜の週二回、工芸館入り口脇のミュージアムショップで行われたワークショップが人気を呼んだ。

内容は「額絵をつくる」で、参加費は無料。用いられる八種類の型紙を手がけたのは型絵染講習会でお馴染みの土手武彦氏。

先生や学生サークル「風の会」、学芸員の資格をめざす博物館実習の学生らがづくり方を説明。まずは紙製の額をつくる。紙を点線に沿って折り曲げ、ボンドで糊付けし、横10センチ、縦15センチの額が出来上がる。

次いで厚紙のしおりに気に入った型紙をあて、青、黄、赤、緑、茶、紫などの顔料で色付けして完成。約30分の体験で自分の作品を手に入れる。



額づくりに励む留学生

十二月十六日の最終回には、留学中のスロベニア共和国リユブリャナ大学の学生三人も挑戦。先生や学生の丁寧な説明にうなずきながら、真剣なまなざしで取り組んだ。マルティナさんは「楽しい。日本でのお土産ができた」と喜んでた。国際交流が活発化する本学にあって、工芸館も一役買った一コマだった。一般の来館者も留学生の隣で作品づくりに励んだ。約二カ月半の期間中、二百人を超える人が額絵づくりを楽しんだ。来館者にとってはミュージアムショップでの来館記念土産購入も楽しみの一つ。絵葉書、暖簾、ハンカチ、バッグなどさまざまなものが、最近では「春夏秋冬」の布文字を描いたテーブルクロスが人気を集めている。

東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館 展示予定

年	2009 年		2010 年	
月	4月8日（水）～6月22日（月）	7月1日（水）～8月31日（月）	10月10日（土）～12月20日（日）	1月9日（土）～3月20日（土）
展示内容	〈特別展〉芹沢銈介コレクション 日本の絵画 〈企画展〉芹沢銈介の屏風（Ⅰ期）	〈企画展〉芹沢銈介の屏風（Ⅱ期）	〈特別展〉芹沢銈介コレクション 絨毯—じゅうたん—（Ⅰ期）	〈特別展〉芹沢銈介コレクション 絨毯—じゅうたん—（Ⅱ期）

同窓会 便り ②

秋田県大曲仙北会

秋田県大曲仙北地区在住同窓生の集いは八月一日(金)、大曲プラザたつみに、会員二十五名が出席して開催された。

本学同窓会事務局から「集いから地区同窓会を設立し活動してはどうか」と提案。しかし、同県に



集いに出席した会員で記念撮影

新潟県同窓会

残暑残る九月六日(土)、長岡市高齢者センターにおいて、総会と市民公開講座が開かれた。

総会には十一名が出席し事業・決算の報告、事業・予算の審議が行われ、承認された。

今回は出席者が少なかったことを反省し、会員の入会と総会への出席者増を図る方策をたて、役員で努力していくことを申し合わせた。

市民公開講座はNPO法人災害

福祉広域支援ネットワーク・サンダーボード理事の鍵屋一さんを講師に迎え「災害時の要援護者対策について」と題し、講演した。同氏は、災害時の要援護対策の実例を紹介し、併せて地域全体の防災力を高める必要性を力説した。

懇親会では美酒・美食に酔い、家庭や仕事を離れた楽しい一時を味わっていた。

山形県同窓会

総会と交流懇親会、恒例となっている大学説明会と公開講座が十月十二日(日)、山形国際ホテルで開かれた。

大学説明会には県下公私立高校から生徒二十一名と先生・保護者

は同窓会がすでに設立されているので、無視して地区同窓会を設立することはできない事情にある。

同県同窓会は、現在活動停止状態であり再生を図ることが先決であるとの結論に達した。本学同窓会事務局では積極的な再生策を練

北海道札幌地区同窓会

十月二十五日(土)、札幌プリンスホテル国際館パミールに、萩野浩基学長・三浦俊二教授・阿部靖彦同窓会事務局長を来賓として迎え、総会を開催した。

渡辺憲介会長(昭47社福)の歓迎のあいさつに始まり、萩野学長が、大学の現状と将来について学部学科の増設が進み、志願者数も

が出席した。対応した榎本等広報課長・石澤優紀入試センター課長補佐らは、受験対策・卒業後の進路や資格取得などについて熱心に相談に応じていた。

公開講座は関川伸哉准教授が「福祉とリハビリテーション」Ⅱ双方からの観点からの考察Ⅱと題し、講演した。福祉概念の歴史の変遷について「貧困救済から幸福を求めるへと変化してきている。これが今世紀の福祉」と説いた。

さらに、「リハビリテーションは身体障害者の機能回復だけでなく、人間の地位復活が今日のリハビリのもつ意義である。だから今日は「福祉」と「医療」が一体のもので



多くの会員が出席しての総会

なければならぬ」と強調した。

総会は午後五時から三十一名が出席し開かれた。あいさつに立つた佐藤正知会長(昭42社福)が

り、関係者に働きかけることが急務であることを痛感した。

集いで久米力会長(昭42社福)が「一回目より出席者減はあるが、小さな輪が大きな輪になるよう努力したい」とあいさつ。

続いて、役員・会則案が承認された。事業計画では母校訪問することを決め、具体化を急ぐことになった。

増えている。今後は、福祉と教育・福祉と医療に力を入れていきたい」と力説した。

記念講演では、三浦教授が「社会福祉をめぐる制度改革の動向と今後の課題」と題し、講演した。話の中で社会福祉士に求められる役割として、福祉課題を抱えた者からの相談への対応、これを受けて総合的かつ総括的にサービスを



学長を囲んで喜びを分かち合う会
員たち

提供することへの必要性和人材の

育成について説いた。

懇親会は、同ホテル別館で開き初出席の会員から学生時代の秘話や卒業後の活躍などが紹介され、一年ぶりの再会を喜び話が弾んだ。「来年は同窓会設立十周年を迎える。記念事業は立案中だが、決まれば同窓生一丸となって頑張ろう」と会員に呼びかけた。

中心議題は「役員改選」と「同窓会設立十周年を迎える記念事業構想」の二件。記念事業構想を実現し成功に導くためにも、役員全員を再選し、事業に取り組むことを満場一致で承認した。

懇親会では本学名誉教授の渡辺剛士氏が乾杯の音頭を取った。盃を重ねることに和やかさを増し、自席を離れ再会を喜び合う姿や、本学の教職員とも交流を深めていた。

北海道空知地区同窓会

母校と共催で、初の公開講座を夕張市内のホテルで十月十八日(土)に開催した。講師に茨城県高萩市長の草間吉夫氏(昭63社福・平15修士)を迎え「ひとりぼっちの私が市長になった」と題し、市民ら約二百人を前に講演した。

同氏は、自分の人生は「七転八起」だった。辛い少年時代を送っ



200 余名の聴衆の前で講演する
高萩市長草間吉夫さん

たが不遇に負けず大学を出て、養護施設で働き政治家になるまでをユーモアを交えながら語った。生後三日で施設に入ったので、盆や正月に帰る家もなく「神様に家族を連れてきてとお願ひした」という話に触れると、聴衆のなかに目頭をぬぐう人や主人の遺影とともに聞き入っていた老婆の姿が印象的だった。

夕張市と同じ旧産炭地で苦境と戦う高萩市の現状を語り「夕張も誇りをもって」とエールを送り、講演を終えた。公開講座開催は見事成功したといっている。その陰には、夕張市在住の同窓生の並々

富山県同窓会

設立以来四回目を迎える総会は十一月八日(土)、富山県民会館五階会議室に、会員十一名が出席し開かれた。

先ず本田孝夫会長(昭42社福)が「贈られた同窓会旗の下、結束を図り、活動内容の充実を期していきたい」とあいさつを述べた。

続いて活動方針等について協議したが、中心議題は、母校訪問だった。昨年は事情により実現できなかっただけに「今年は是非実現したい」と具体化を急ぐことになった。

ならぬ努力があったことを見逃すことはできない。

この後の総会・懇親会には二十八名が出席した。いずれも公開講座が大成に終わった後だけに安堵感が漂うなか進行された。

来年は、美瑛市で総会を開くことを決め、最後に夕張市在住の吉川真知子さん(昭44産福)の締めあいさつで無事、終了した。

宮崎県同窓会

十一月二十二日(土)、都城市のメインホテルナカムラに、十四名の会員が出席して開かれた。



県政報告を行う熱血県議
図師博規さん

県都宮崎市を離れ地方都市で開くのは、一昨年に続き二度目。

総会であいさつに立った野田伊津岐会長(昭52社福)が「少ない会員数ながら力を合わせ、同窓会の活性化を図りたい」と今後の指針を示した。

役員改選では野田会長が再任され、会長あいさつで示した指針に沿って役員一同、力を合わせ事業推進に取り組むことを決定。一致結束した野田体制二期目がスタート

次いで、本学の鈴木玲子特任講師が「健康をデザインする」と題し、実技指導も加えながら講演した。鈴木講師は「肥満を防止するには、動かずに汗をかくことができ

るダンベル体操が最良である」と強調し「手(指)のつまむ力の強弱が健康のバロメーターとなる」として、ダンベルを一人ひとりに持たせて実技指導をした。

同窓生の額・体からうっすらと汗が滲み「懇親会でのビールが待ち遠しい」と早くもノドの渇きを訴えていた。

懇親会は、実に和やかな雰囲気

保育士課程同窓会

▽活発に事業を展開

「社会福祉専門職ガイダンス」は七月十九日(土)、本学福聚殿自習室に、保育士や福祉専門職を目指す学生二十数名を集め開かれた。

ガイダンスは、保育士課程同窓会が、学生の保育実習への援助及び福祉専門職への意欲を喚起することを目的に毎年開かれ、今年で十七回を迎えた。

出席した学生の一人は「先輩から実務について経験豊かな話が聞けて、就職への不安や迷いが解けた。今後に必要な心構えもできた。出席してとてもよかった」と喜んでいた。

山梨県同窓会

記念講演では、宮崎県議会議員図師博規氏(平3社福)が県政報告を行った。同氏は、平成十九年四月の統一地方選挙で、児湯郡から立候補し高得票でトップ当選を果たしている。

現在、政務調査費・議員旅費支給問題・議員定数削減の三大革命に取り組んでおり「県民の目線で改革を断行し、新たな改革を提案していきたい」と抱負を述べ報告会を終えた。

懇親会は、実に和気あいあいのなか、交流の輪が広がった。話題は総会出席者の増加策や、母校訪問実現の具体策など、会運営に携わるものを中心だった。



母校訪問実現を決め具体化急ぐ会
員たち (前列中央は鈴木玲子先生)

のなか、近況や在学当時、仙台で過ごした食生活の話題に花が咲いた。今年、母校訪問が実現したときには、華やかな飲食店街を訪れるのも楽しみの一つとして話は尽きなかった。

▽芋煮会開く

恒例の芋煮会は十月十九日(日)午前十一時から広瀬川越橋下の河原を利用し、開かれた。

晴天に恵まれた河原には「育みの会」と書かれた旗の下に二名の現役学生を含め十名のOB・OGが集まった。

仙台は豚肉と味噌を使うのが特徴。みんなが腕によりをかけて協同でつくりあげた芋煮鍋の底からすくって食べる味は格別の様子だった。

OB・OGの子供らがおいしそ

うに食べる姿に顧問の佐藤美恵先生が優しく声をかけるなど、微笑ましい光景も見られた。

大学から同窓会のシンボルとして

「山梨県同窓会旗」の贈呈が行われた。披露されると会員から歓声があ



会員に披露する同窓会旗
前会長恵星富子さんと
新会長細田清さん

がり、喜び合う姿が見られた。早速旗を背に記念の集合写真を撮り、総会に入った。

過去二年のブランクもあって収支決算の表示の仕方に若干の質疑応答が行われ、一部訂正の結果、承認された。

役員改選では、同窓会設立に尽力し、生みの苦しみと育てる苦しみを体験した初代会長恵星富子さん(昭40社福)が顧問に就任したのはじめ、新たに細田清さん(昭和44社福)が選出された。

細田さんは、就任のあいさつで、

▽同窓会総会

「育みの会」発足当時から会の運営に尽力した顧問の佐藤美恵先生が、三月に定年退職を迎え、「先生に感謝する会」が総会に合わせ十一月三十日(日)本学で開かれた。

出席したOB・OGらは、在学中、ピアノや音楽の授業・ゼミやサークル活動で指導を受けた方も多く見られた。出席者が口を揃え「先生のお人柄が学生に安心感を与え、いつも絶やさな

い笑みで心が癒された」と語っていた。

総会には二十数名が出席し、役員改選や事業計画案について協議。事務局の提案通り承認され、小野高安会長三期目がスタートした。

同窓会への関心を高める施策・現役学生への就職情報の提供・大学野球選手権大会・明治神宮大会に母校が

出場したときの応援体制の強化の三施策を発表し「会の運営に全力を尽くしたい」と抱負を述べた。

懇親会は、三年ぶりの再会であつて喜びもひとしおだった。

栃木県同窓会

総会では十二月六日(土)、宇都宮市コンセーレに八名の会員が出席し、開かれた。

小池芳子会長(昭37短大)が歓迎と母校訪問のお礼を述べ、鈴木春彦同窓会事務局員が大学並びに同窓会の現状報告を行い、協議に入った。

協議は役員改選と、同窓会運営の在り方が中心となった。

役員改選では、全員が再任された。今後の運営の在り方については、毎年総会案内の郵便代が事業費を圧迫しているため「効果的な妙案はないか」を協議。その結果、他県を参考にして、今後役員会で検討することに決め、終了した。

懇親会では、赤羽賢一さん(昭44社福)の乾杯の音頭で始まった。話題は母校訪問と、そのときに印象に残った学生のファッションや大きく発展する大学の現状に関心が集まり、若き学生時代に戻ったかのように青春を謳歌していた。